

子育て中の大学等研究機関の研究職

○ 武蔵野大学人間科学部社会福祉学科 氏名 小高 真美 (4702)

キーワード3つ: 子育て 大学 研究所

1. 報告者プロフィール

日本の高校卒業後、渡米

■ Cottey College (リベラルアーツ) 卒

■ Smith College (リベラルアーツ 心理学) 卒

臨床心理、社会心理に関心を持つが、ゼミ教員の勧めでソーシャルワーカーの道へ

臨床現場で経験を積むため、大学卒業後1年間、Optional Practical Training 制度を利用

■ Gould Farm (精神障がい者入所型リハビリ施設)

ソーシャルワークの知識ほぼゼロで Columbia University 大学院に進学

■ Columbia University School of Social Work (臨床ソーシャルワーク) 修士課程修了

■ 愛知みずほ大学 人間福祉コース 専任講師

非常勤でソーシャルワーカーとしても活動

■ ルーテル学院大学大学院 博士課程修了 博士 (社会福祉学)

■ 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 研究員

センター病院 (旧・武蔵病院) でソーシャルワーク業務も実践

■ 出産 (精神保健研究所時代)

■ 上智大学 グリーフケア研究所 研究員

■ 昨年度より現職 武蔵野大学 人間科学部社会福祉学科 准教授

2. 研究者としてのキャリア形成の道のり

【アメリカ時代】

■ 大学では、アドバイザーの研究補助として文献整理などのアルバイトをしていたが、大学時代には研究経験はほぼなし

■ Columbia University では、臨床ソーシャルワーク専攻だったため、研究の経験は限定的

■ NY でソーシャルワーカーとして就職予定だったが、諸事情により帰国

【愛知みずほ大学時代】

■ 臨床・研究・教育の有機的关系の重要性を改めて実感

■ 「しっかり研究して、論文をたくさん書いたほうが良いよ」と先輩からのアドバイス

■ 対人援助職の労働安全に関する研究実施のため研究費を獲得し、研究代表者として初

の“本格的な”質問紙調査、インタビュー調査、フィールドワークを実施。成果を学術雑誌に投稿するもリジェクト・・・

【精神保健研究所時代】

- 研究をメインとする仕事に就くと同時に、博士後期課程に入学
- 重度かつ慢性の精神疾患の経験者と共に研究を実施した経験から、現在の研究テーマ（自殺予防対策）に
- 医学、疫学、看護学、教育学、社会学、心理学、法学、薬学など、様々な専門的バックグラウンドをもつ研究者、臨床家や実践者などと研究や関連活動に従事
- 大規模な研究に従事すると同時に、科研費や民間研究費による個人の研究も実施
- WHO や世界各国の、精神保健を専門領域とする研究者らとも協働
- 国際学会での発表はもちろんのこと、海外の学術雑誌で研究成果を発表することが当たり前の環境

【子育て時代（幼少期）】

- 研究所勤務時代に出産するが、非常勤（勤務時間数は常勤とほぼ同じ）だったため長期の育休制度は利用できず、出産後、3か月半で子どもを保育園に預けて職場復帰
- 頼れる家族は基本的には夫のみだったので、自治体のサービスも活用
- 所属部署の理解が得られ、自分が望む育児スタイルが実現
- 子どもがまだ幼い時期に、社会福祉士の資格を取得するため通信制専門学校に通い、実習も経験
- 無理ない範囲での、国際学会発表や海外出張
- PTA などの仕事は夫婦で分担（夫は元 PTA 副会長）

【子育て時代（現在）】

- 「研究はこれから先いくらでもできるけど、子育てができるのは今のうちだけだから」という先輩教員の言葉に励まされながら、両立に奮闘
- 国際学会での発表や海外でのフィールドワーク等も継続（直近では、昨年10月にフロリダで学会発表、今年1月末にニューヨークでフィールドワーク実施）
- 進行中の研究5テーマ、執筆中の英語論文2本、日本語論文3本。その他、関連活動
- 無理せず、自分が大事にしたいことを大切に

3. 求められる研究支援

- 周囲との協働（子育てに関して）
- 様々な専門領域の研究者や実践者等とネットワーク構築ができる場（研究に関して）
- そのほか・・・（紙幅の関係で割愛）